



陽子の道政だより

59

2014年 新緑号

発行 平出陽子後援会

 連絡先／函館市中島町2-8
 北教組函館支部内
 (☎33-5080)

2014年度 北海道予算可決

総額3兆3,304億円！ 実質80億円赤字予算！（8年連続）

— 私たちは組み替え動議を
提出し反対しましたが —



第1回定例会 予算特別委員会で質問

道民の味方ではない

「高橋道政」

北海道議会議員 平出陽子

新年度は消費税8%で幕開けです。三月末のスーパ―は日用品を買いだめする人々で大混雑でした。庶民は自己防衛するしかありませんが、それにも限界はあります。

国の財政状況を考えますと、何らかの対応はとらざるを得ないことは、分かりますが、短絡的に「消費税アップ」に走っているように思えてなりません。給料が上がらなければどの部分を削って生活するといいの不安な毎日です。「アベノミクス効果」がないまま消費者に負担を強要している政府です。光が当たるのは大企業ばかりです。

道の新年度予算をみると、やはり道民や地域が直面する課題解決のための予算案ではありません。昨年度当初予算に比べると一・二%増ではありますが、実質八〇億円の赤字スタートです。予算の中味も悪い上に借金（今や道予算の一年分より大幅に上回る五兆八七〇〇億円）も増えるのは、知事の財政運営上の失敗ではないかと、組み替え動議を提出して反対しましたが、少数否決され予算は可決成立してしまいました。

国も道も庶民の味方ではないことが露呈したことになります。高橋知事は「国に申入れる、国の動向を見極める」の答弁に終始していますが、他県には毅然と国に対し、自分の考えを言える知事もいます。国に追従するのは知事ばかりでなく道議会と党派会派も同じです。道内の市町村議会でも成立できた「特定秘密保護法の廃止を求める意見書」「集団的自衛権の行使に関する憲法解釈を変更することに反対する意見書」も道議会では自民・公明の反対で否決されましたが、私達はいくらも皆様の声を代弁する活動を進めていきます。

福祉を基本理念

街づくりは住民の更なる発展を！



私は、「街づくり」の基本は福祉の理念が含まれているのが本来の姿だと思っています。

つまり、行政や政治があえて『福祉の街づくり』と銘打たなくとも、あらゆる住民の自立した生活の更なる発展を追求するのが究極の街づくり政策だと思います。

私は、後期の二年間は、建設委員会に所属しましたので、ハード面の街づくりを調査する機会が多くできました。（四頁の写真参照）

しかし、ハード面だけでなくソフト面も重要だと認識しています。つまり首長の街づくりの考え方にかかっています。「街づくりとは何ぞや。」「何を重点に街づくりをしたいのか。」その時の「根底に流れる基本的理念をどこに置くのか。」ということが、重要なのです。

Ⅱ 二月開会の第一回定例会予算特別委員会で保健福祉部に「福祉のまちづくり」について質問（写真①）したそうですが。

△平出▽北海道には全国的にも数少ない「北海道福祉のまちづくり条例」が一九九七年に制定され、一部二〇〇三年に改正されています。また二〇〇九年三月には「北海道障がい者条例」もできました。

残念ながらいずれも努力義務条例で強制力を持たないのです。だから推進の歩みは遅い部分もあります。

Ⅱでは条例制定後の北海道の福祉のまちづくりの推進状況は？

- △平出▽例えば道立施設のうち建物出入口の段差解消がされたのは七〇六施設中約九八％。
- 点字誘導ブロック設置がされたのは五七三施設中約六九％。
- 音声誘導装置設置がされたのは六四七施設中約二八％。

という状況です。

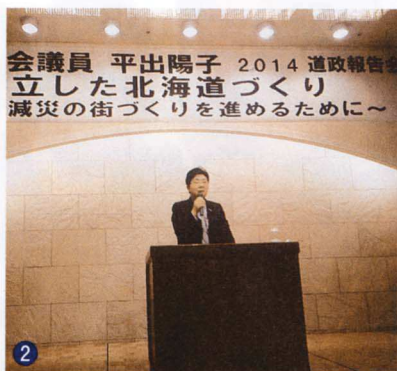
更に独自で条例を制定しているのは、二月現在で札幌市、函館市、苫小牧市など一〇自治体。

また、指針や計画・要綱などを定めているのは旭川市、帯広市、千歳市など一〇自治体です。交通事業者であるJR北海道では、駅舎等の点字誘導ブロックについては概ね整備。段差解消については、一日利用五〇〇人以上の駅舎で八二％。一日利用三〇〇人以上以上駅舎で六九％。障がい者対応トイレ設置では、

企業対象報告会

自立した北海道づくり

― 防災・減災の街づくりを進めるために ―



写真②のように、「防災・減災の街づくり」の観点から企業対象報告会を開催しました。

国は経済効果を出すために、国土強じん化政策を掲げ建設業界に仕事を発注しようとしています。「防災・減災のため」と言

一日利用五〇〇人以上駅舎で八八％。一日利用三〇〇人以上駅舎では八二％整備済です。

しかし、要望が多い可動式安全柵の設置などについては一部の地下鉄駅に限られています。

九〇団体で構成されている「北海道福祉のまちづくり推進連絡協議会」の参加団体を拡充していき整備を加速していくそ

われると誰も反対できません。

「街づくりは住民の生命と財産を守る」のが基本ですから、安心・安全な街づくりを進めるためにも後押しするような支援策が重要になります。

静岡県吉田町では国道の上に大型津波対策建造物（写真③④）を建設しました。大型歩道橋のような物です。津波が十五分以内に到達する町なので、町内に一〇ヶ所以上も創設したそうです。

うです。

Ⅱ 推進に向けての道の決意は？

△平出▽やはりソフト面の充実として「心のバリアフリー」を訴えています。道民一人ひとりが社会の一員として尊重され、安心して暮らすことのできる街づくりが重要と答弁していました。

新年度から

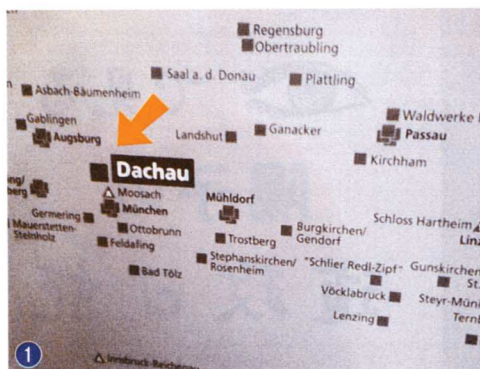
少花粉スギ

試験栽培開始！

昨年の第一回定例会予算特別委員会で林務部に質問したことが、一年経て実現しました。（道政だより56号参照）

一年前に北海道で話題に上がらなかったPM2.5も飛来しています。環境の変化に対応できる行政でありたいものです。





Ⅱ 欧州友好交流の旅でドイツを訪問したそうですが、印象に残ったことは何ですか。

△ 平出V学校と熱エネルギー電力会社と強制収容所跡地を訪問しましたが、やはりショックだったのは強制収容所跡地でした。アウシュビッツ収容所は有名ですが、同じような収容所は国内に一〇〇ヶ所もあったそうです。ダッハウ収容所跡を訪

ドイツ訪問記

—その1—

ダッハウ強制収容所跡地

＝遺構として後世に＝

問いたのですが、その他にも元収容所所在地が点在しています。(写真①)
生きて戻れない小川を渡ると収容所正門です。
写真②の大モニュメントが目に飛びこみます。説明は受けませんでした。私は虐殺されたユダヤ人の魂の叫び・怒り・怨念を表現していると感じたのですが…。



Ⅱ 国内に一〇〇ヶ所もあると近所の住民はその場所がどんな意味を持つ所なのか、わかっていたのではないですか。

△ 平出Vごろごろ入っていくのを見て、変だとは思っていたようですが、中でそのように大虐殺されていたとは知らなかったと言います。戦時下ですから報道規制されていたのでしょうか。

終戦後、中の状況が判り、国の恥と全部取り壊したそうですが、国内外から非難され遺構として復元しました。(写真③④⑤)

③は収容所。同じような建物は何十棟も並んでいたそうです。中はカイコ棚のベッド。初めは一人一ベッドですが、後半は二・三人で一ベッド使用。④は並んでいるトイレです。

シャワー室とだまして入れた



ガス室が写真⑤です。焼却炉の写真はさすが撮れませんでした。写真③の並木は当時の樹。あの並木を見て、強制収容された人々は心を和ませたそうです。

後世に伝えるため

子供達に見学を必修化

Ⅱ ドイツの平和教育について教えて下さい。

△ 平出Vドイツの子供達には学生時代に必ず、このような場で学習させるそうです。写真③の中央を歩いているのも学生達です。右側の並木の下では、ボランティアの人から説明を聞いている子供達のグループがいます。

大戦時の罪は罪として贖罪し、未来に向かうための教育をしているドイツの教育政策を垣間見た訪問でした。



第1回定例会で採択された決議・意見書

- ◎大間原発建設に関し慎重かつ厳正な審査と説明責任を果たすよう求める決議
- ◎TPP協定への参加に関する意見書
- ◎「手話言語法(仮称)」の制定を求める意見書
- ◎「小規模企業振興基本法」の制定等に関する意見書
- ◎公務員獣医師の処遇改善を求める意見書
- ◎子ども・子育て支援新制度の円滑な施行を求める意見書
- ◎東日本大震災の被災者への住宅支援等に関する意見書
- ◎地方自治体の臨時・非常勤職員の待遇改善を求める意見書

- ◎災害時多目的船の導入を求める意見書
- ◎2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた環境整備及び地域における取り組みへの支援を求める意見書
- ◎ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充を求める意見書
- ◎過労死等の防止に関する総合的な対策を求める意見書
- ◎労働者保護に配慮した雇用・労働政策の実施を求める意見書

日本の為政者はどうでしょうか。従軍慰安婦も南京大虐殺もなかったことにしたい安倍政権です。第二次世界大戦の同盟国のドイツと比べると、何と貧弱な歴史認識でしょう。ですから戦争への道を逆戻りさせないために、私達も過去を学習しなければなりません。



▲ 女性議員研修会（札幌市）
— 女性が輝く政策について —

函館女性会議新年親睦会
— 函館女性市議の皆さんと —



で見る 陽子の 道政日記

障がい者就労施設調査

— 札幌市東区 買物かご洗浄施設 —



— 施設概要説明 —



— 洗浄過程 —



— 分別整理 —

建設委員会道外調査



▲ 木造建築物の耐震構造調査（京都市東寺）
— 女性宮大工さんと —



▲ 黒壁を生かした街づくり調査
（滋賀県長浜市）



▲ 津波対策事業 可動式防潮堤調査
（静岡市）

第8次北教組欧州友好交流の旅

（ドイツ・ミュンヘン ギムナジウムにて）



— 「歓迎」の文字で出迎え —



— 昼休みの学校ロビーにて —



— 放課後の学校前庭にて —

春の晴れやかな日々が始まりは、消費税率8%の雲によって、私たちの生活に影を落とすことになりました。負担が増える傍らで、医療・福祉・教育など、私たちが必要とする施策の拡充は遠ざかっているように感じます。さらに、原発再稼働や集団的自衛権の行使容認が論じられています。国益を最優先するばかりに、弱い立場の市民を犠牲にしてはなりません。この情勢だからこそ、市民目線の政治を担う平出陽子が必要です。市民の声を道政に反映させるため、ぜひ、「意見等いただければ幸いです。今後のご協力とご支援をお願いいたします。」

あとがき



▲ 北教組渡島支部女性部総会



▲ 朝鮮女性と連帯する函館の会総会